

被災のカキ産地支援

前橋総合技術ビジネス専門学校

「鉄デバイス」で成長促進



鉄デバイスを開発し、カキ産地での活用を目指す小島校長

カキの成長を促進する技術を開発した前橋総合技術ビジネス専門学校(前橋市、小島昭校長)の研究が、被災地支援を目的とした科学技術振興機構(JST)の公募事業に採択された。2019年春から、西日本豪雨で被害を受けた広島県で、良質なカキを育てる装置の実地研究を始める。

JST公募事業に採択

研究の開発責任者は、業の活性化につなげる小島校長で、開発した計画。公募には全国の技術を被災地の地場産工業大学などから一

0件の応募があり、21件を採択した。専修学校で選ばれたのは同校のみで、研究費299万円が助成される。開発したのは「鉄デバイス」と呼ばれる装置で、小島校長が過去

に開発した装置の改良版。鉄板と炭素板を接触させ、水中に鉄イオンを発生させる。鉄イオンには植物プランクトンを増殖させる働きがあり、水中に供給することで、植物プランクトンを餌とするカキの成長が促される。身が大きくうまみが強いカキができることが特長で、装置の素材

には、自然環境に影響を与えない腐葉土などを使う。今後、具体的な実地研究の場を検討する。小島校長は「価格や使いやすさ、安全性も考慮して設計した。おいしいカキがより多く生産されることを期待している」と話が相次いだ。

月の豪雨により、河口周辺などでは川から流れ込んだ流木が養殖用の棚を壊したり、土砂が堆積するなどの被害が相次いだ。

広島県の養殖カキの生産量は全国1位。7